

■プロジェクトの目的とその背景

地球温暖化等の影響により各地で災害が頻発する中、地域の防災体制の構築が求められ、地域の防災拠点として公園の役割が期待されていますが、身近な地域の公園は、非常時に地域の防災拠点として(日常的には、子どもたちの遊び場として)の公共空間の機能を十分に果たしていません。

また住民の生活の場であり子育て環境であるはずの公園は、住民同士のコミュニケーションも鈍く、定期的な防災訓練もあまり活発ではありません。しかしながら、人工的な環境の中での生活に慣れた私たちにとって、災害発生時に自然に対峙しながら、地域住民が互いに協力しあい、生き抜くための防災体制を実現させるには、日常的な訓練が必要不可欠であると思われます。

■プロジェクトの内容

【地域安心防災訓練プロジェクトの広報の実施】:プロジェクト全体の広報の実施、プロジェクト立ち上げ説明会の開催、防災環境教育プログラムの広報の実施

【防災環境教育プログラムの開発・実践】:プログラム作りのためのワークショップ、プログラムの実行・評価

【プロジェクト全体の評価】:プロジェクト実施報告書の刊行



身近なものを利用した救急担架。

■プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果

防災関係のみならず環境保全活動団体等には風力発電・太陽光発電による電力確保、また滋賀県健康福祉課は、災害弱者に対するバリアフリー対策、車イス体験、非常食試食等の災害体験提供の協力依頼をしました。心のケアの面で、京都芸術大学との連携において、公園の中心で美術創作活動をしていただき、災害時には共に力を合わせて明るく励ましあうことの大切さを伝えるという工夫をこらしました。

防災といえば、専門的分野に捉えられがちですが、子どもたちが多く集まる身近な公園に地域や他分野団体と「共助」に関してお互いが知恵を出し合い、取り組みができたことで、防災訓練の堅いイメージが和らぎ、気軽に取りかかれる実践啓発事業を行いました。

■全体的所感、終了しての感想など

本格的な救護活動が始まるまでの時間の流れの中で、3 時間、3 日間、3 週間の時間流れを意識し、行動することの大切さを伝えたところ、与えられたプロジェクト内容に真剣な態度で取り組む子どもたちの姿が忘れられません。

防災マップ作りにおいては、地域の環境や歴史、文化など地域特性に焦点を当て、作業防災の視点をおいた従来のファザードマップとは異なりますが、聞き取り作業作業の過程において、楽しく世代交流ができたことと地元特性を知ることができました。

今回の活動を通して、子どもたちから家庭、地域に防災意識が発信されたことと、子どもたちの地域を見る・地域を知ろうとする意識の変容が見られたことが心に焼きつきました。



環境資源と避難場所と危険箇所を確認しました。